

日本移民学会 第23回年次大会

The 23rd Annual Conference at Musashi University

▲ program

The 23rd
Annual Conference at Musashi University

【開催日時】 2013年6月29日（土）
6月30日（日）

【会場】 武蔵大学 江古田キャンパス 8号館

【問い合わせ先】

《大会実行委員会》 菅 美弥

〔FAX〕 042-329-7328

〔E-mail〕 2013jams@gmail.com

《大会校担当者》 アンジェロ イシ

〔FAX〕 03-3991-1198

〔E-mail〕 angelo@cc.musashi.ac.jp

大会シンポジウムテーマ

「ディアスポラと越境を再考する—理論と実証から」

ディアスポラと越境が移民や移動をめぐる研究における鍵概念となって久しい。ディアスポラは祖国喪失、離散という原意のみならず、多様な歴史・世界の文脈のもと、グローバルな離散（行為と状態）と、文化的遺産を維持、祖国を希求し記憶を共有する集団を指す言葉として認知されている。また現状では、ディアスポラが百花繚乱さながら多方面で使用されており、ここではディアスポラに至った混乱、紛争、貧困などを歴史横断的に分析する分析視点と、ディアスポラのポジティブな意味変換とその表象を受容する態度が混在しているともいえる。

しかし、こうした現状であるからこそ、ディアスポラ概念を整理し、ディアスポラや越境をめぐる実証研究と照らし合わせつつ再考する作業が必要ではないだろうか。そこで、本シンポジウムでは、ディアスポラを通じてみえてくる移民研究の新たな可能性とは何か、一方、課題や問題点は何か、さらには、日本を舞台とし、また経由するディアスポラ世界とはどのようなものかを具体的に問うていく。そのことによって、国家・人種・

エスニシティ・ジェンダーが織り成すディアスポラ世界における離散・移動のありようを、離散・移動する（した）人びとの視点を通じてすどく炙りだすこととしたい。

シンポジウムの第一部においては、アメリカおよびアジア地域でのディアスポラと越境について、アジア系アメリカ研究学会および本学会会長から、基調講演をしていただく。第二部においては、日本にベースを置く研究者によるディアスポラ研究の地平を、理論および実証面から発表をしていただき、ディアスポラを参照枠組みとした場合のグローバルな移民研究の可能性や課題について討議し、知見を共有する機会としたい。本シンポジウムが日本・アジア発のディアスポラ研究の可能性や課題についての共有知の深化を生み、日本移民学会のグローバルな発信の第一歩となることを願ってやまない。

大会実行委員長 菅 美弥

第1日目 **2013.6.29 [Sat]** ※ 会場は全て 8号館です

9:30-10:30	四役会議 (教室 No.88-H)
9:45-	受付開始 (8号館 7階 教室 No.8702 前のラウンジ) / 会員控え室 (教室 No.8503)、書籍販売 (教室 No.8702 前のラウンジ)
10:30-11:30	第二回運営委員会 (教室 No.88-H)
10:00-11:30	若手研究者支援企画 (教室 No.8603) Mary Yu Danico (California State Polytechnic University, Pomona, アジア系アメリカ学会会長) を囲んで、日米の若手研究者を取り巻く状況と支援のあり方等について語り合います。
12:00-14:00	会長講演 (教室 No.8702) Mary Yu Danico (California State Polytechnic University, Pomona, アジア系アメリカ学会会長) 吉田亮 (同志社大学、日本移民学会会長)
14:15-17:15	大会シンポジウム (教室 No.8702) テーマ「ディアスポラと越境を再考する—理論と実証から」 【趣旨説明・司会】 菅 美弥 (東京学芸大学) 【パネリスト】 五十嵐 泰正 (筑波大学) 野入 直美 (琉球大学) アナ・エリーザ・ヤマグチ (上智大学) 【コメンテーター】 飯島 真理子 (上智大学)
17:30-18:15	第一回総会 (教室 No.8702)
18:30-20:30	懇親会 (8号館 8階 50周年記念ホール) 若手研究者には参加費補助があります。また懇親会において、若手研究者紹介コーナー、天才's MCsの在日ブラジル人リーダー、MC ベトのミニライブもありますので、ふるってご参加下さい。

第2日目 **2013.6.30**[Sun]

8:30-9:00	第三回営委員会(教室 No.88-H)
8:30-	受付開始(教室 No.8702 前のラウンジ)
8:30-8:50	自由論第報告者と司会者の打ち合わせ
9:00-12:00	自由論題報告

自由論題報告

A会場(教室No.8701) 司会：高橋 典史、李里花

9:05-9:45	生田 篤(九州大学・院)	福岡市のモスク開所過程と留学生の宗教問題
9:50-10:30	田中 里奈(山口福祉文化大学)	「特別永住権を維持/放棄する」ということ — 在韓「在日コリアン」の語りから
10:35-11:15	盧 相泳 (京都世界人権問題研究センター)	ジェンダーにおける韓国の外国人政策と多文化主義

B会場(教室 No.8603) 司会：小澤智子、小島 勝

9:05-9:45	和泉 真澄(同志社大学)	日系アメリカ人強制収容所における農業 — アリゾナ州ヒラリバー戦時転住所の事例より—
9:50-10:30	小林 茂子(中央大学)	1930年代南洋群島における越境教育史の一側面 — 「体験記」からみた日本人教師の教育活動を手がかりに —
10:35-11:15	田中 健二(摂南大学)	アメリカ行き日本人女性移民の希望と落胆： — 一世の声、乗船名簿、シアトル地元新聞を中心に

C会場(教室No.8604) 司会：三田 千代子、山田 政信

9:05-9:45	岩瀬 正幸 (プリティッシュ・コロンビア大学・院)	不就学の在日ブラジル人の少年少女の主体性と多文化共生社会への参加： 共同ビデオ制作の貢献
9:50-10:30	オチャンテ・カルロス(環太平洋大学)、オチャンテ・ロサ(三重県教育委員会)	日本におけるエスニック集団のコミュニティ形成と宗教の関係性 — 三重県伊賀市に住む日系南米人の事例 —
10:35-11:15	星野 壮(大正大学・院)	在日ブラジル人の宗教活動 — 心霊主義センターの場合 —
11:20-12:00	山口 博史(名古屋大学)	日系ブラジル人親の居住状況が子の滞日化におよぼす影響

12:00-12:30 **第二回総会(次期会長、運営委員の発表)(教室 No.8702)**

12:30-13:30 **ラウンド・テーブル**

昼食持参で、以下の3会場で行われるラウンド・テーブルにご参加ください。

A会場「移民言語の生かし方—移民コミュニティにとって」(教室 No.8603)

【モデレータ】 庄司 博史(国立民族学博物館・総合研究大学院大学)

【発表者】

拝野 寿美子(神田外語大学)「在日ブラジル人第二世代とエスニック・コミュニティ：「架橋する」役割の自覚とプライド」

高畑 幸(静岡県立大学国際関係学部)「『英語ができるフィリピン人』という再評価」

窪田 暁(京都文教大学/民博外来研究員)「ドミニカ系移民にとってのスペイン語—関係構築の資産としての母語」

B会場「実業家とブラジル移住」(教室No.8604)

【モデレータ】木村昌人(渋沢栄一記念財団)
 【報告者】
 柳田 利夫(慶應義塾大学)「岩崎久彌と東山農場」
 黒瀬 郁二(鹿児島国際大学)「渋沢栄一とブラジルの日本人植民地」
 谷ヶ城 秀吉(名城大学)「ブラジル移民を支えた南米航路と大阪商船」

**C会場“The Politics of God, Mission, and Memory: Korean Christian Churches in Shin-Okubo”
 (教室No.8701) ※英語セッション**

【モデレータ】Yoko Tsukuda(Seijo University)
 【報告者】Edward J. W. Park(Loyola Marymount University, International Christian University)

14:00-16:30

開催校企画シンポジウム(教室No.8702)

テーマ「移民アーティストの可能性」

【司会】白水 繁彦(駒澤大学)
 【趣旨説明】アンジェロ・イシ(武蔵大学)
 【パネリスト】MCベト(天才's MCsメンバー)
 Funi(元KPメンバー)
 【コメンテーター】中野克彦(立命館大学)

16:40-17:30

第四回営委員会(教室No.88-H)

会場(武蔵大学 江古田キャンパス8号館)へのアクセス

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1



- 西武池袋線「江古田」駅から徒歩6分
- 都営大江戸線「新江古田」駅から徒歩7分
- 東京メトロ副都心線、有楽町線「新桜台」駅から徒歩5分。



日本移民学会

click!